

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第158号 (2024.2.25-2024.3.3)

- ◆ 参加者…かれん、涼閑、しまねこくん、夜鳥、紗千子、susuni、
ちゃんみーい、クイスケ、西脇祥貴、石原とつき、おかもとか
も、水の眠り、西沢葉火、上崎、菊池洋勝、海馬、古城エツ、
うつわ、円山すばる、池田突波、しろうと、蔭一郎、さー、り
ゆうせん、朝森たけ、靈夢、鴨川ねぎ、suiso、守風、温(ぬる)、は
ー(ハ)、まつりぺきん、何となく短歌、片羽雲雀、汐田大
輝、岡村知昭、峯ひろき、花野玖、馬勝、石川聡、Tando、
crazy lover、奈津美、ゆりのはなこ、みゆう、千春、みさきゆ
う、やは、安里和幸、山羊の頭、onwananin、月波与生(五一名)

◆川柳・俳句

春泥を捏ねれば捏ねるほど世論 しまねこくん
ぶらんこが満腹するまで漕ぎたまへ しまねこくん
貝が言う引越し先は痒かった 千春

topoと気圧でどっかしてる閨 片羽雲雀

追い焚くか追い焚かれるか抱かれるか おかもとかも
バス停を肩甲骨の下に刺せ まつりぺきん
薫を焼く匂いに似てる一周忌 かれん

風邪ひけば水母の味のするポテチ 蔭一郎
リンスインシャンプーイン四月の戯曲 上崎

雪柳、夕風、やわらかなはめつ 上崎

淡雪や男ばかりの露天風呂 夜鳥

「地獄?」「だったね」息が中島みゆき 西脇祥貴

船を発たせて傾いていく額縁よ 海馬

いい意味で卒業ですと放流す しろうと

喋らせる首の断面冷めるまで 安里和幸

*

指にゆび絡めた夜の遠花火 涼閑

沈みゆく弥生の雪に埋めた指 紗千子

女の子そだててかなし雛かざり *stysyu*

贖罪を、月に魅入られたサロメには クイスケ

みんな笑って天下フフ 西沢葉火

隆起する海底に止む冬鷗 菊池洋勝

目覚めたらホントの夢を見ていたの うつわ

僕は三月を持って余す男です 池田 突波

早咲きの綿毛消えないしゃぼん玉 さー

縞馬のアドリア海とエーゲ海 りゆうせん

結婚と 地震のあった 閏年 靈夢

影だけが見送っていく転校生 鴨川ねぎ

二月月初診患者は予約不可 *soko* 守宮

二丁目セブン異次元馴染み *ヒュー・イム・ミット*

春の雨街の半分消えている 汐田大輝

菩提樹がまだ返さない伝書鳩 *soko* 守宮

粉末のフクロウの啼く枕元 岡村知昭

うかうかと朧月夜を二駅分 花野玖

まさしくこれでニーチェはころぶ 石川聡

カップ麺美味しそうだね弁当より *crazy lover*

比喻ってさグーとかチヨキとかパーとか、ね 奈津実

旧かなと新かなの混じる冬銀河 ゆりのはなこ

月並みななみなみの月を掬って やは

わたくしの卑小さも鳴る寒怒濤 安里和幸

辛し命わが身いとしい思う自由 山羊の頭

*

閏年だけ売っているへそ凶鑑

月波与生

◆ 短歌

あの頃は少し敏感だったので記憶が少し血で滲んでる み
ゆう

ジ、ジ、ジージ 接触不良により今は遠距離なので壊れそ
うです 水の眠り

会話する電車のなかの距離だって手話は確かにやさしく届
き 水の眠り

性欲の定義は広く寂しくて湯タンポを抱く行為も含む 峯
ひろき

*

火星の用心棒たりえる「へっちゃらよ」お姉様な輪ゴム
石原とつき

掬(く)いたいたい諦めたこと止めたこと玉虫色に輝かせたい
古城エツ

初人生 True と Bad の両方の選択選び (ゲームオーバー)
円山すばる

お寺にて毎週見掛ける顔がありきつとおんなじ悲しみの中
朝森たけ

雨に濡れ見えるものは玉ぼけ世界見たくないものはフィル
ター越しに 温(ぬ)

今日これで死ねば明日が来ないのに起きて出かけて涙する
のだ 何となく短歌

鼻と鼻触れあう距離にいた君と弁護士を通して話し合う
馬勝

寝不足にギックリ背中の駄目押しでピラティス諦め毛布に
くるまる Tomoko

表面に跡つけてすべるくらい会話が楽だ 割らない氷
omiyaharu

こんなにも鈍色の matter 言い訳はしない私はわたしに誓う
みさきゆう

◆詩・短文

だめだ。寝れないなあ、
そして静まり返ったこの空間になれない。
月曜から不安だ。(ちゃんみーい)

◆作品評から

黒猫の白目につづく夢の日常 汐田大輝

「夢の日常」。不思議な言葉だが作者の言いたいことが伝わりにくくなつたのでは。「夢」は使いやすいが伝わりにくい言葉。(月波与生)

鍋焼や不器用が割る箸の音 菊池洋勝

「うまくいってない時は割り箸もへんに割れたりします。あの食欲が失せるような音が聞こえてくるようです。(月波与生)

まさしくこれでニーチェはころぶ 石川聡

「こんばんは。今日は休みだったので(とはいえちよつと仕事はしましたが)、古本屋でニーチェの「反時代的考察」を買いました。(石原とつき)

上様と書かれるお方はレジ前で後ろの人に恐縮してる水の眠り

「領収書くださいカミサマで！」と大きな声で言った後輩も結婚して子供ができてエラそうなことを言うようになってから疎遠になった。(月波与生)

町をみる客が一人もない窓 雷

　　私が暮らしていることはひなびた温泉町なのでそんな窓だらけです。でも十和田湖はもつと悲惨で廃墟ホテルが。。。 (月波与生)

チチヤスのかわいいとを先に食べ今日はチチかなそれともヤスカ さー

　　おっさんのエロいタワゴトかと思ったらチチヤスヨーグルトのことだったんですね。チー坊というらしい。(月波与生)

鯛焼きくらいひとりぼっちで食うよ soul 守宮

　　ひとりとは言えても「ひとりぼっち」とはなかなか自分で言えない言葉だと思うが最近はずーに言えるのかな。「鯛焼きくらい」のくらいがぼっちっぽく切ない。(月波与生)